

# うた ひつじの詩だより

2010.6.1  
毎月発行 No.111  
この裏にはご致の品と  
いっしょにお届けします

右の写真をご覧ください！現在、アトリエ「おひさまたまご」の日曜日ワークショップでは、8人の希望者による草木染めの色見本作りが行われています。

天然染料での染色ではぜひ原始に近づきたいという主催者のこだわりで、まきで生の火をおこして大鍋をかけ、本当は森や野に出かけて植物採集から始めたいところを、そこはぐっとがまんして、用意した染料を煮出します。毎回ひとつの色を濃・中・淡に染め、さらに色をかけ合わせることで、3回のワークショップで30色(!)もの色を手に行うことができるのだそうです。



## 朝日カルチャーセンター新宿 ウォルドルフ人形と羊毛の手仕事～抱き人形のヨアキム

7月8日(木)と9月9日(木)のいずれも 13:00～15:00、ウォルドルフ人形のヨアキムを作ります。



ヨアキムは身長約25cm、ヴェロアにほどよい量の羊毛が詰められていて、赤ちゃんや小さいお子さんの手にもほっこりなじむ大きさと柔らかさです。シンプルで、はじめてのお人形にたいへん適していると思います。作り手にとっても取り掛かり易く、羊毛に慣れていない方、初めてウォルドルフ人形を作る方にもお勧めです。

お子さんのため、お孫さんのため、お友達のご出産祝いに、あるいはご自身のためにお作りになってみませんか。今回、私も助手として参加いたします。みなさまのお越しを楽しみにお待ちしております。どうぞ奮ってご参加ください。《お問い合わせ、お申し込み：朝日カルチャーセンター新宿 TEL：03-3344-1947 または 03-3344-5450》

佐藤治子

## 巡回展 「ウォルドルフ人形の四季」 -2009、スウェーデン大使館作品展より-

6月20日(日)～22日(火) アトリオン 秋田市中通 2-3-8 TEL：018-836-7801

担当：生守恵利子

## その他の作品展

6月1日(火)～9日(水) 「ウォルドルフ人形作品展 ウォルドルフ人形の世界から」  
小野エクラギャラリー 小野市中島町72 TEL：0794-62-5080 担当：足立美和子

7月10日(土)～14日(水) 9:30～17:00 最上川「千本だんご」蔵座敷

山形県北村山郡大石田町大石田乙76 TEL：0237-35-2312 担当：榛地裕子

★ 期間中の10日、11日、12日、ヨアキムまたは赤ちゃんサーラの講習会を行います。  
《お問い合わせ・お申し込み：TEL&FAX 0237-36-1012 吾妻みつる》

★ 6月12日(土)と13日(日)、スウェーデンひつじの詩舎は、ボルボ・カーズ目黒「スウェーデンの夏至祭」の企画に参加します。(目黒区碑文谷 5-1-5 TEL:03-3714-3261)  
「夏至祭の子どもたち」の人形を展示するほか、実際に手にとって遊べるウォルドルフ人形も用意いたしますので、お近くの方は是非お立ち寄りください。

## 「スペース ペレのあたらしいふく」からのおしらせ

これまでスウェーデンひつじの詩舎の直営店「スペース ペレのあたらしいふく」は毎週木曜日～土曜日(祝日除く)を営業日としておりましたが、2010年6月1日より下記の通り営業日を変更させていただきます。お越しの際は間違いないようにお気をつけください。

開店営業日： 毎月第1・第2週の月曜日～土曜日(祝日除く) 10:00～16:30

2010年6月の営業日： 1,2,3,4,5, 7,8,9,10,11,12日

また、スウェーデンひつじの詩舎の通信販売につきましては、土曜日の商品発送は控えさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

## 連載 シュタイナー学園の『手の仕事』— その6 (最終回) 手の仕事専科教師 友岡礼子

シュタイナー教育は12年の一貫教育であり、9・10・11・12年生は上級学年にあたります。当学園は9年生までですが、希望する人は隣接のNPO法人シュタイナー高等学園で継続して学ぶことができます。上級学年の学びの中心に据えられるのは、「考えること」——心を動かし自分の中で取り込んだことを統合し、意志と結びつく生き生きとした思考をすることです。手の仕事では今まで体験し学んできたことを土台に、具体的に仕事をすることで、自分の考えを形にする過程を体験します。

現在9年生では、糸紡ぎと籠編みに取り組んでいます。糸紡ぎは、素材への理解とともに織物に繋がる実技です。10年生の紡績工場や織物工場での職業実習も、テキスタイル・テクノロジーの学びの一貫となります。幸いにも学園に近い八王子市は歴史的に絹織物が盛んであった場所であり、子どもたちは、今も続いている工場で実習をさせてもらいます。



籠編みでは、ウールとは違う蔓の性質を知り、その基礎的な技法を学びます。技術を適切に使うことによって必然的に生まれる形態、そしてその機能と美しさを見極めるようになるのです。上級学年の始まりである9年生では、手の仕事の籠編みに留まらず、陶芸・鍛金・絵画など専門の教師による授業が増えます。新しい教師に出会うこと、また数々の専門分野の実技を学ぶことは、思春期の様々な困難さを克服する一助にもなるでしょう。この後、手の仕事では織物、衣服制作、製本等を取り上げ、生徒たちはそれまでの学びの上で新たな技術と出会い、自分自身のデザインを実現していくこととなります。

シュタイナー学園の「手の仕事」の授業を六回に渡って紹介させていただきましたが、授業が意味のある仕事であることをお伝えできたでしょうか。世界各地のシュタイナー学校でも同じように子どもの成長に合わせた授業を組み立てていますが、それらは学校と地域の特性によって多少異なります。当学園は若く、今後取り組む課題は数多くありますが、手仕事の好きな皆さんがこれを機にシュタイナー学園に関心を寄せてくだされば幸いです。また6月12日は学園を公開するオープンデーですので、是非お越しください。(写真：9年生 紡いだ糸と籠/乱編みの籠)



編集担当 佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ  
<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

## ♥ スウェーデンひつじの詩舎 ♥

スペース ペレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2

TEL&FAX 045-881-6900,6665

佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708

相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035